

まちを愛し、まちを元気に

# ナバリスト5

大久保 浩美 さん | 蔵持市民センター職員

おおくぼ・ひろみ ● 看護師やイラストレーターの経験を生かして、難病や障害のある娘と絵本を制作。昨年6月からは市民センターで広報紙やチラシ、ロゴマークを制作するなど、多彩な表現力を生かしながら人と人をつなげている。



## みんなの「得意」で、みんなハッピーに！

中学2年の長女は3万人に一人の難病を抱え、左半身まひの障害もあります。「やればできる」を体験させてあげたいと思い、小学校を卒業する際、娘が好きな絵本を親子で制作して、支援いただいた先生に手渡すことになりました。すごく喜んでもらえたので、娘もとっても嬉しかったようです。

そんな娘が小さい頃、よく面倒を見ていた大いた人から「子どもの思いを大切にしてあげて」「子どもの手が離れた時、同じように、他の子どもを大切にしてあげて」などと言葉をかけてもらつたことが忘れられません。

「子どもたちが集まる市民センター」という先輩職員の思いにとても共感できたのも、その言葉があつたから。昨年秋の市民センター祭では、中高生を含む運営スタッフが活躍したり、中学・高校の部活動とコラボしたり。今年の夏は、親子で楽しめるゲームやアート、科学実験、星空観察など、30近くの催しを繰り広げます。工作が得意な人、料理好きな人、自作のパズルを考えた人、ピザ釜をつくる人など、みんなの「得意」を合わせると、いろんなことが実現できるんですよ。

「私なんて…」という人も意外な特技があつたりして、みんなに喜んでもらっているのを見ると、今まで嬉しくなる。地域に楽しい「つながり」を広げながら、「なんでもやるやる。くらもぢやで。」というロゴを掲げ、みんなで盛り上がりつづけるといふです。

## 編集後記



名張のひと・活動

毎年恒例の青蓮寺湖観光村ぶどう狩り。「今まで○○園と△△園は行つたから、次は別の園で！」と、ぶどう園巡りを楽しむ人もいるんだとか。私もお気に入りの園を見つけたいです(はる)

秘書室前で飼養しているオサンショウウオの「弥助」が特定外来生物の対象に。職員からも市民からも親しまれている弥助を、この先も飼養し続けていきたいですね(こう)

令和6年8月10日発行

● 人口 74,544人 (前月比 - 68人) ● 世帯数 34,953世帯 (前月比 +13世帯) ※ 7/1現在

広報なばり

発行／名張市 なばりの未来創造部 広報シティプロモーション推進室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1

電話 0595-63-7402 FAX 0595-63-2560 E-mail pr@city.nabari.lg.jp



市HP